

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 114人

② 算数 114人

③ 理科 114人

5 留意事項

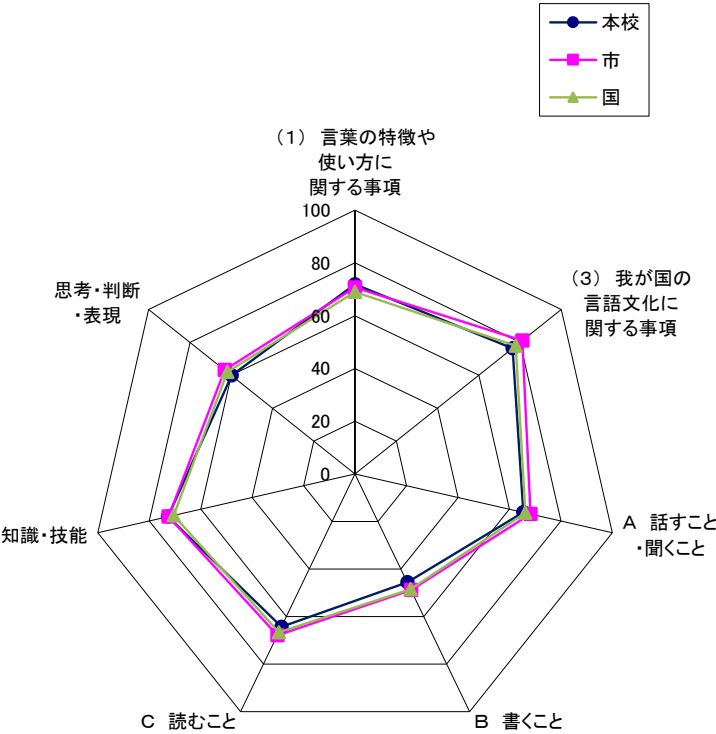
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.3	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.4	68.2	66.2
	B 書くこと	45.6	48.9	48.5
	C 読むこと	64.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	72.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	59.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

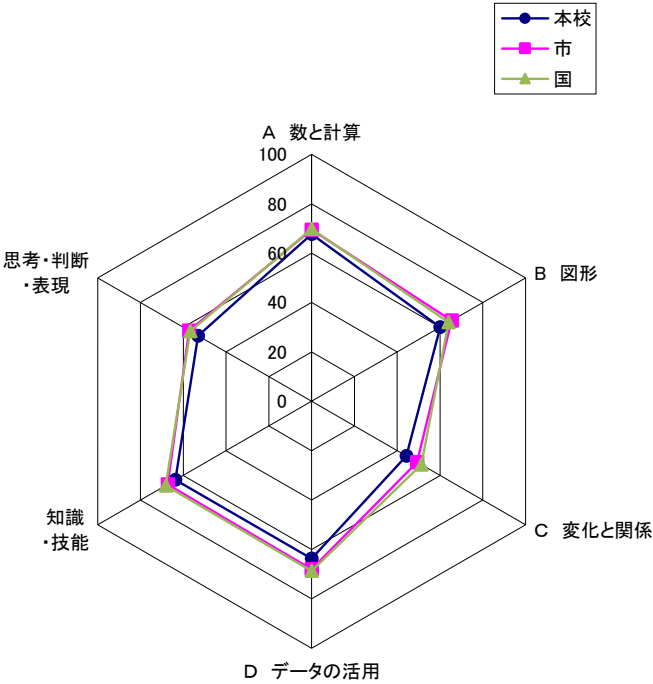
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率については全国平均を2.9ポイント上回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に関する設問は、全て全国平均正答率を上回った。 ●「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」に関する設問は、全国平均をやや下回っている。	○引き続き、授業の導入や朝の学習の時間などを活用し、既習の漢字の定着を図る。漢字一文字の扱いにとどまらず、熟語を取り扱ったり文章の中で正しく使ったりすることができるよう配慮する。 ●日々、自分の意見を発表する際、話し言葉と書き言葉を正しく使い分けられるよう指導し、少しずつ言葉の違いが理解できるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」に関する設問は、全国平均を1.6ポイント下回っている。	●主に書写の時間を活用して指導していく。 ●相手の読みやすさを考えて書くことには、文字の大きさや文字と文字との間だけでなく、行の中心を意識して書くことも含まれることを指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率については、全国平均をやや下回っている。 ○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」に関する設問は、全国平均をやや上回っている。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」に関する設問は、全国平均を2.1ポイント下回っている。	●話し合いをする場面では、まず話し合いを始める時点での自分の立場を明確にしてから話し合いに入るよう指導していく。話し合いを通して意見が変わった場合、その理由をもとに自分の意見を整理し直し、自分の意見がまとめられるよう助言する。
B 書くこと	平均正答率については、全国平均を2.9ポイント下回っている。どちらの設問においても全国平均を下回った。 ●特に、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」に関する設問は、全国平均を3.9ポイント下回っている。	●問題文や説明文を問わず、どこからどこまでが何について書かれているかが分かるよう、文章の構成を丁寧に読み取っていく。さらに、何を伝えるかによって書き表し方が変わっていることに気付けるよう、文章の違いが捉えられるようにしていく。
C 読むこと	平均正答率については、全国平均を2.3ポイント下回っている。いずれの設問においても全国平均を下回った。 ●特に、「登場人物の相互関係について、描写を基に考える」、「表現の効果を考える」に関する設問は、全国平均を3.1ポイント下回っている。	●登場人物の心情などについて、どの表現からどんな心情と読み取れるか、文章の描写に根拠を求めて読み取るよう指導していく。 ●文章の読み取りにおいて、端的に書くならAだけれど、Bと書かれていることでどんな違いがあるか比較して考えるようにし、表現の効果を感じられるようにしていく。その際、その表現が何を示しているのかを明確に読み取れるよう助言していく。

宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.7	69.5	69.8
	B 図形	60.1	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	44.3	49.3	51.3
	D データの活用	63.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	63.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	53.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

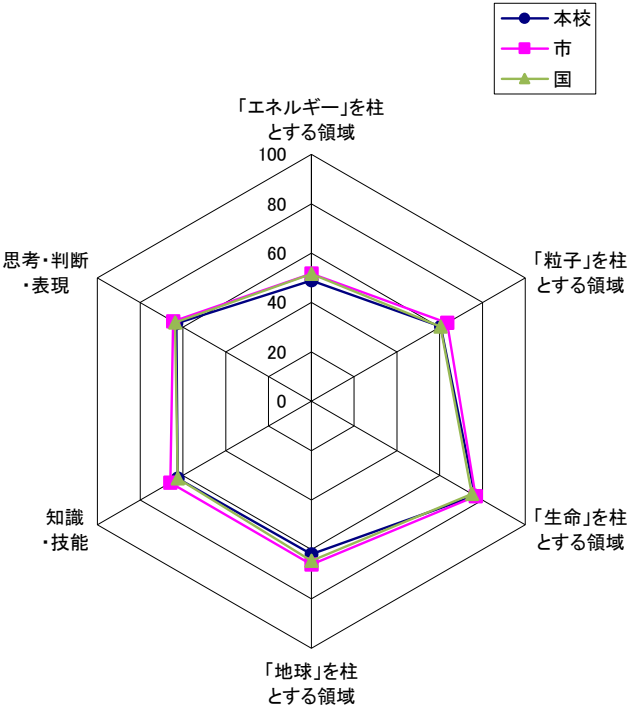
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率については、全国平均を2.1ポイント下回っている。 ○「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする」や「例示場面を解釈し、除法で求める理由の記述をする」に関する設問においては、正答率が高く、いずれも全国平均を上回っている。 ●「例示場面において、目的に合った数の処理の仕方の考察」や「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目し、項目に当たる数を求める」に関する設問における正答率は、全国平均を大きく下回っている。	・乗法や除法の計算の仕方を確認し、継続的に反復指導して定着を図る。どの単元に関わらず、毎時間少しずつ取り組んでいくことによって内容・技能の定着を図っていく。技能の個人差が大きいので、個に応じた支援を行っていく。 ・問題場面を適切に理解し、数学的に表現することができるようにする。立式する際には、式の意味を理解できているかどうかを、言葉や図、グラフ、数直線等で説明するなどして確認し、根拠をもって立式ができるような指導をしていく。
B 図形	平均正答率については、全国平均を3.9ポイント下回っている。 ○「図形の意味や性質を基に、角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察し記述する」についての設問における正答率は、全国と同程度であった。 ●「図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の仕方について理解している」に関する設問における正答率は、全国平均を大きく下回った。	・「図形を構成する要素」や「公式を覚える」ことだけに留まらず、それらを導き出す過程や考察理由をしっかりと押さえるなど、真の意味を理解するための指導を大切にしていく。 ・指導に当たっては、パソコン等のICT機器や模型などを活用した授業を行い、実際に児童に操作させたり、視覚的な面からも理解を深められたりできるようにしていく。
C 変化と関係	平均正答率については、全国平均を7.0ポイント下回っており、どの設問においても全国平均を下回った。 ●特に、「百分率で表された割合を分数で表す」設問や、「伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」設問において、全国平均を8ポイント以上下回った。	・数直線や図などを使って、数値の関係性を正しく捉えて問題に取り組めるような指導をしていく。 ・「比べられる量」「基にする量」についての意味を正しく理解させ、相互の関係性をしっかりと押さえた上で、問題演習に取り組ませていく。 ・実生活に結びつくような課題を設定し、解決できた喜びを実感できるような課題を設定していく。
D データの活用	平均正答率については、全国平均を5.0ポイント下回っている。 ○「目的に適したグラフを選択し、必要な情報を読み取る」設問における正答率は全国平均と同程度であった。 ●「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察する」設問に関する正答率は、全国平均を下回った。	・グラフの読み取りの学習では、目的に応じて各項目の数量の大きさを読み取るだけでなく、項目間の関係や全体的な特徴などを読み取る活動も重視して指導していく。 ・算数に限らず、他教科や日常生活の場面における資料を活用していくことで、児童の興味関心を高めた活動を展開していく。

宇都宮市立五代小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	60.5	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	61.9	66.1	64.6
観点	知識・技能	62.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	63.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率については、全国平均を2.7ポイント下回っている。 ○「実験の結果から、問題の解決に必要な情報を取り出しやすく整理された記録を選ぶ」設問においては、正答率が高く、全国平均を上回っている。 ●「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く」設問における正答率は、全国平均を大きく下回っている。	・実験を伴う学習では、実験自体に興味をもち、予想を立て、必要なものを準備して取り組み記録することはできている。今後は、自分から実験を発想したり、得たい結果のためにどのような仕掛けや比較対象が必要かを自分で考える力を育てるため、主体的に取り組めるような指導を行っていく。また、実験によって得られた結果からどんなことができるか考察する学習活動を重点的にを行い、思考力を高めることができるよう支援を行っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率については、全国平均を0.1ポイント上回っている。 ○「メスシリンダーという器具の理解」に関する設問においては、正答率が高く、全国平均を上回っている。 ●「メスシリンダーの正しい扱い方」に関する設問における正答率は、全国平均を大きく下回っている。	・実験の器具など、名称や用途の基本的な知識はあるが、正しい使い方が身に付いていない。実験はグループ活動が多いため、実際には器具の取り扱いを経験しない児童もみられるため、どの児童も正しい使い方ができるよう、技能を高める指導を行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率については、全国平均を1.5ポイント下回っている。 ○「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ」設問においては、正答率が高く、いずれも全国平均を上回っている。 ●「昆虫の体のつくり」に関する設問における正答率は、全国平均をやや下回っている。	・観察の記録を書くことは、何度も経験している児童が多く、身に付いている。今後も、生物の体のつくりでは、じっくりと観察したことを図で表現するなど、観察記録の取り方の技能を高めていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率については、全国平均を2.7ポイント下回っている。 ○「冬の天気と気温の変化を基に、問題に関するまとめを選ぶ」設問においては、全国平均と同等である。 ●「鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものか書く」設問における正答率は、全国平均を大きく下回っている。	・自然の事物・現象の中に問題を見いだす力をつけるために、自然に親しみ、季節や時間帯などにみられる差異点や共通点に着目させる指導をしていく。また、観察が直接できないような条件であっても、映像資料で調べるなど、授業内容や資料活用の工夫を行っていく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では、94.2%の児童が肯定的回答をしている一方で、「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した児童も5.9%いる。朝食の必要性について、児童に引き続き指導をし、家庭にも呼びかけていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、100%の児童が肯定的回答をしている。いじめゼロ強調月間やいじめゼロ標語、いじめゼロ集会(テレビ放送)やいじめに関するアンケート、日々の学校生活の中での指導を継続していきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問では、79%の児童が肯定的回答をしており県平均や全国平均と比較しても約6～11%高い。教育相談や日々の学校生活の中で受容的に話を聞き、児童一人一人が居がいのある楽しい学校生活を送れるよう、援助していきたい。

●「平日1日あたりどのくらいゲームをしますか」の質問では、34.4%の児童が3時間以上ゲームをしており、県平均や全国平均と比較しても約2～4%高い。家庭でのゲームを行う時間のルール作りの呼びかけや適度な時間での実施を呼びかけること、情報モラル教育を継続して指導していきたい。

●PC・タブレットに関する複数の質問において、毎日使用していると回答した児童の割合が県平均や全国平均と比較すると低い傾向が見られる。引き続き指導を行い学校生活において十分に慣れ親しみ、文具の一部として扱えるようにしていきたい。

●「家で、計画を立てて勉強をしていますか」の質問では、肯定的回答率が県平均と比較すると3.7%低い。自分のための学習という意識をもち、自分にどんな学習が必要か考え、進んで取り組めるように家庭学習の仕方について学習内容の例などを示しながら再度確認する。

宇都宮市立五代小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組む、課題を解決できる手立ての工夫	・宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。 ・結果の予想や課題解決の仕方など、学習の見通しを立てられるようにする。	・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。 ・漢字や計算に個人差がみられる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分で、前年度までに身に付けておくべき学力が備わっていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な粘り強く自力解決しようとする意欲と、基礎基本の確実な習得が必要と考えられる。	・基礎基本、既習内容の定着 ・基本的な学習態度の指導徹底	・朝の学習の時間を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。